滋賀

「花咲かせて」野洲小に贈る

ペットボトルキャップ再加工プランター

回収したペットボトルキャップを再加工したプランターが、キャップのリサイクルに協力する野洲市野洲小学校に、花の球根や土とともに届いた。

県内75の企業・団体と、個人19人でつくる「淡海フィランソロピーネット」の社会貢献活動の一環。学校などでキャップを集め、障害者施設の利用者が回収や分別、業者がプランターに加工する。そのプランターを学校などに贈って花を咲かせてもらう。環境保全と障害者の就労支援につなげる「hana―wa(ハナワ)プロジェクト」に取り組む。

同ネットは2014年からカレンダーと手帳を安価で販売するチャリティーバザーを開催。収益金でプランターを購入し、花の種や球根、土をセットにした栽培キットを寄贈している。

野洲小であった贈呈式では、6年生4人に同ネットに加盟する日吉(近江八幡市)の社員からプランターなどが手渡された。キャップを回収する生活介護事業所の利用者らも駆けつけた。勝悠里さん(12)は「集めたペットボトルキャップが役立っていることを知り、うれしくなりました」とお礼のあいさつをした。(松瀬晴行)

ペットボトルキャップを再加工したプランターや球根などが贈られ、笑顔の児童たち(前列) ＝野洲市野洲小で

十字路 情報スクランブル

福井

中華そば 地元産こだわり

ブランド豚のチャーシュー、放置竹林活用したメンマ

越前市内のそば店などでつくる武生麺類業生活衛生同業組合は9日に北陸新幹線県内開業歓迎イベントとして「めん祭り」を越前市の道の駅越前たけふで開く。コロナ禍での中断で4年ぶりの開催。呼び物は地元産の具材をふんだんに使用した「中華そば」で限定100食を用意する。

チャーシューは白山地区のブランド豚「福井白山ポーク」を使用。白ネギは神山地区の農家から取り寄せた。麺は県産小麦「ふくこむぎ」を100%使用している。注目はメンマで、坂口地区の住民団体と同組合が協力し、放置竹林を活用して収穫したモウソウダケを特産化。3カ月間塩漬けして熟成させており、程よい塩加減とコリコリの食感に仕上げている。

イベントに先立ち、越前市役所で試食会が行われた。金子康幸組合長は「中華そばにも力を入れており自信の出来。ぜひ味わってほしい」と来場を呼びかけている。

イベントは午前10時半～午後3時。中華そばは1杯750円で販売し、おろしそば(750円)も限定300食で販売する。近海産のセイコガニ丼(800円)も限定80食で販売する。(藤井雄次)

めん祭りで提供される地元産の具材を使った中華そば＝越前市内で

三重

伊賀上野駅舎にストリートピアノ♪

伊賀市はJR伊賀上野駅(同市三田)の待合室に、誰でも自由に弾くことができるストリートピアノを設置した。鉄道の利用促進や街のにぎわいづくりにつなげる狙い。

市内の駅にピアノが置かれるのは初めて。2020年3月に閉校した同市の旧長田小で使われていた河合楽器製作所製のアップライトピアノを活用した。

10月26日に同駅で開催されたセレモニーでは、岡本栄市長が「通学利用者だけでなく、旅行で訪れた人にも楽しんでいただける」と話した。ピアノの除幕式と記念の演奏会も開かれた。

通学で関西線に乗るという青山佳樹さん(17)＝上野高2年＝は「Fuga XIII」(バッハ)を披露し「駅舎で演奏するのは新鮮。乗り換えのときに弾いてみようかな」と話した。演奏できる時間は毎日午前9時～午後5時半。(鈴木義人)

ピアノ演奏を披露する上野高生＝伊賀市三田のJR伊賀上野駅で

大阪

住友生命と府が協力
アプリで健康増進事業 7万人参加

企業が従業員の健康に配慮する「健康経営」に活用してもらおうと、住友生命保険は、デジタルデータを活用した健康に関する大阪府との共同プロジェクトへの参加を呼びかけている。2022年10月の開始以降、約7万7千人(9月末時点)が参加。26年3月末まで続け、健康寿命に関する分析を進め、府の施策への反映を目指す。

プロジェクトの参加者は、住友生命が提供する健康支援アプリ「バイタリティー」をスマートフォンにダウンロードする。歩数や心拍数に応じてポイントがたまり、コンビニなどで使えるクーポンがもらえる。約1500社が従業員に参加を呼びかけているという。

住友生命は個人が特定できないようにした上でデータを集め、歩数や心拍数といった数値の変化が健康状態に及ぼす影響を研究機関と分析する。府側はデータを活用し、健康寿命が全国平均と比べて短い府民の健康状態の改善に関する施策に反映させたい考えだ。

住友生命は定期的にプロジェクトの参加者にアンケートを実施している。アプリの利用者は、80%超が歩くなどの運動を続けているという。

共同プロジェクトを進める住友生命保険の高田幸徳社長㊧と大阪府の吉村洋文知事＝大阪府庁で

岐阜

蚕から生糸になるまで 写真で紹介

養蚕農家が生糸や真綿を作る過程を写真に収めた池田町の写真家大西暢夫さん(55)の企画展「お蚕さんから糸と綿と」が、揖斐川町春日美束の町春日森の文化博物館で開かれている。19日まで。

2020年に刊行した同名の絵本写真集に掲載した写真50点を展示。岐阜と滋賀の県境にある金糞岳の麓の養蚕農家が蚕を育てて繭になるまで待ち、繭を乾燥させて生糸に仕立てるまでの農家の人の表情や糸そのものを捉えている。

「バタバタと羽ばたこうとするが飛べない。糸をとるために改良された生きものだからだ。ぼくたちは、たくさんの小さな命を身にまとっているのだ」など大西さんの文も掲示する。

博物館は午前9時～午後5時。入館料一般110円、小中学生50円。水曜休館。㊡博物館＝0585(58)3111 (市川勘太郎)

繭を乾燥させる工程や糸をつむぐ様子を捉えた大西さんの写真＝揖斐川町で

国連WFP協会

気づきを、動きへ。

公益社団法人 ACジャパンは全国の1,000を超す民間の企業と団体がひとつになって、広告を通して社会にメッセージを送り続ける非営利組織です。

AC JAPAN

公益社団法人 ACジャパン 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
◆広告についてのご意見・ご要望はホームページへ。 http://www.ad-c.or.jp